

「周郷博先生追想集」に

寄せて

村石京子

周郷先生が亡くなられて、この三月で二年の月日が流れました。正確に言えば、五十五年二月二十八日に先生は逝かれたのですが、四谷のイグナチオ教会で最期のお別れをしたのが三月一日のことなので、三月という月がめぐりくると、春の訪れを感じる前に、「あ、この月の始め、春の来る前に周郷先生は亡くなられたのだ」という思いが胸の中一様にひろがってしまいます。前日二月二十八日も先生の死をつたえるように寒い、心の芯の冷えるような日でしたが、あの日三月一日も灰色でした。教会でのミサが終り、お別れの献花をして外に出ると、それまで辛うじて支えられていた思いが一度に噴出した

ような大粒の雨と、荒れ狂った風に傍然と立ちつくしたものでした。周郷先生とのお別れを悲しむ人々の心が一かたまりになってあんな雨を降らしたのか、俗人で先生の気持をわかってくれない人達に對して先生の憤りが嵐をよんだのかしらと驚いたのですが、そのようなことを言えば、「だから貴女はまたつまらないことを言う」と先生に叱られそうにも思います。そんなことがまざまざと思い出されるのに、もう二年の月日が流れてしまいました。

でも不思議なことに、周郷先生の思い出は月日が経っても少しも薄れず、いや月日が経つ程、色濃く私の中によび起こされてまいります。そしてただ、なつかしい思いで一杯になるのです。

学生のときは、教育社会学の講義でしたが、時間になっても待っても待ってもいらっしやいません。私達は口ではぶつくさ言いながらも、他の先生のと きには考えられない程辛棒強く、先生がいらっしや

るのをお待ちしました。「もういらっしやらないわよ」「また休講か」などと言いながらも、みんなは若しかしたらと期待していたのです。そして本当に先生が現われて、風呂敷包から本を数冊出されて「ハーバート・リードのね」とか、「今、来る途中で思ったんだけどね、この頃の日本人で疲れてるね」などと口を開かれると、もう今までの不満顔はどこへやら、一生懸命話をうかがうのでした。

先生は講義をなさるときは、あまり大きな声でなくボンボンと、それでいて一言一言かみしめるように話されるので、自然とひきこまれていきました。また、詩をよくよんで下さったものですが、そのときはとてもはっきりとした口調でした。さらに、歌をうたわれるときは、あれ／＼と思う程大きな声で、そして美しい音程でうたわれます。私達は、周郷先生の歌が大好きでした。「金髪のジュニー」をきれいな声でうたわれたり、「ぞうさん」のうたがいいね、二番の『あのね かあさんが好きなのよ』とこ

ろがいいんだよね」と言われたり、「里の秋」の『栗の実煮てます いろりばた』のところが好きだな」と言われてうたわれたり、私どもも一緒にうたったりしたものです。『赤とんぼ』のうたや、先生の作詩された「くもさん」のうたもよくうたって下さったので、思い出すと今も先生の声がきこえてくるような気がします。

附属幼稚園の園長先生としてお迎えしての四年間には、その頃先生の心を占めておられたティヤール・ド・シャルダン、シモーヌ・ヴェイユ、そして服部（ブッシュ）孝子さんのこと、矢沢幸君のことなど、折々にいろいろうかがいました。ただ、私たちは毎日の保育に精一杯なために時間的に先生とかみ合わなかったり、いつでも先生にお目にかかれるという甘えの気持があったために、今考えればもっと大切にすべきであった日々を時の流れにのせてしまったようなところもありました。それにしても短いようでも四年間は長く、いろいろなことがあります

きてここには書くことが出来ません。書けば、何かしら虚しく、ばらばらと音を立てて飛び散ってしまいそうな気がするのです。

そんな気持で周郷先生の思い出を心の中であたためているこの頃、心待ちしていた「周郷先生追想集」が出来上がり、送っていただきました。まず手にして表紙を見たたん、胸がじーんとしてしまいました。先生がこよなく愛された秦野の緑の中で、オルガンを弾いていらっしやるのです。それは静かな美しい絵物語でした。そして頁をくると、よくまあこれだけ大勢の方々が、と驚く程の多方面の方達が周郷先生の思い出、先生とのふれあい、自分の中にある周郷先生について書いておられるのです。そしてそれが一冊のまとまったものとして、生き生きとありし日の先生の姿をえがき出しています。

先生によって教育とは何かを知りました。そして心の豊かさ、心の暖かさ、美しさ、優しさ、哀し

さ、寂しさ、敵しさ、いえもつともついろいろなものをいろいろな形で教えていただきました。純粋なもの、真実を見る眼、愛などにふれることも多くありました。夫々の人が、夫々の体験を通し、感じ、味わたったのです。そして先生とのふれあいによって生まれたものは、時が経っても決して消えてしまふことなく、むしろ大きく育っていることを追想集の一言ごとに感じるのです。

追想集は赤間峰子さん（以前に「幼児の教育」の編集をしておられた方です）はじめ、大勢の方々の御苦心によって、このような立派なものとして結実しました。本当に嬉しく思います。周郷先生もきっとちよつとテレくさそうにしながらも、優しく喜んでいらっしやることと思います。

（お茶の水女子大学附属幼稚園）

☆「周郷博追想集」（送料共三千円）を御希望の方は、左記へお問い合わせ下さい。

かど創房 門馬正毅 〒343 越谷市大成町八一二五二〇—四四 TEL・〇四八九—八二—八八〇〇